

第2回龍ヶ崎市まち・ひと・しごと創生有識者会議 資料

《今回、検討頂きたい事項》

★人口ビジョン

- ⇒目的：目標とする将来人口を検討する
- ・5地区別将来人口の動向を把握した後、本市として目指すべき将来人口について議論する

★総合戦略

- ⇒目的：4つの基本目標の検討、及び4つの基本目標毎の施策の骨子を検討する
- ・総合計画（戦略プラン）、関連課意見、アンケート結果、現状データ等を踏まえて、事務局が作成した基本目標と施策骨子案について議論する

《目 次》

1. 人口ビジョン	別冊	
2. 総合戦略	1	
(1) 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	子育て環境日本一を目指したまちづくり	2
(2) 龍ヶ崎市への人の流れをつくる	住んでみたいと感じるまちづくり	3
(3) 安定した雇用を創出	地域力を活かしたしごとづくり	4
(4) 時代に合った地域づくりと地域間連携	地域がつながる、安心・安全なまちづくり	5

1 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

⇒ **基本目標：子育て環境日本一を目指したまちづくり**

龍ヶ崎市の特性・住民の意向等

■龍ヶ崎市の特性

- ・龍ヶ崎市は1990年代の急激な人口増加の時期を経て、今後は人口減少に転じることが予想されている。
- ・全国の市区町村と比較すると、人口減少の度合いは小さく、自然増減をみると、従来は、わずかではあるが出生数が死亡数を上まわっていたが、最近は死亡数が出生数を上まわるようになってきた。
- ・社会増減をみると、従来は大きく転入超過であったが徐々に減少し、最近は転出超過に転じている。社会増減の年齢別の傾向は、住宅購入層の中心である30代、40代及びその子供の年代である0～14歳、大学入学期にあたる10代後半が転入超過である。一方、就職、結婚期の20代の転出超過が顕著であり、50代以降は微増となっている。
- ・地域別の傾向は、東京都、千葉県へは大きく転出超過である。一方、県内では、他の常磐線主要駅やTX沿線の都市には転出超過であるが、県南東部の市町村などからの転入超過により、県内の移動は転入超過である。
- ・出生率は、全国と茨城県はほぼ同等な値（2012年は1.41）で推移しているが、龍ヶ崎市はやや低めの値（2012年は1.21）で推移している。
- ・地区別人口をみると、ニュータウンの龍ヶ岡地区や北竜台地区では人口減少の度合いはわずかであるが、それ以外の地区は大きく人口減少が進んでいくことが予想され、旧市街地などは高齢化も高い。
- ・ニュータウンの分譲は峠を越え、新築件数は少なくなっている。
- ・都心から45kmの通勤圏にあり、水や緑の自然環境が豊かである。

■第1回まち・ひと・しごと創生有識者会議より

- ・国の施策に対して、本市として何をやるのか。
- ・魅力的な都市計画が人を呼び込む。
- ・JR佐貫駅周辺は、近隣のJR駅と比較しても魅力があり開発の余地がある。
- ・既存の市街化区域を如何にして生かしていくかが重要。
- ・区画整理事業はうまくいかない。
- ・特区を考えたい。
- ・雇用拡大において、どの辺が狙い目か整理するべき。

■住民要望(アンケートより)

- ・佐貫駅に子育て支援センターを整備。
- ・若者に安定した仕事を。
- ・子育てと仕事の両立が困難。

施策展開のポイント

- 子育て環境日本一を目指したまちづくりを実施中である。
- 若者・子育て世代の定住を促進するために、子育て支援関連施策の充実が必要と考えられる。(社会増)
- 出生率を向上させるために、子育て支援関連施策の充実が必要と考えられる。(自然増)

事業展開のポイント

- 子育て環境日本一を目指し、子育て支援関連の施策、事業は多数実施しており、新たな事業展開に応じた既存事業の整理統合も必要である。
- 市においては、子育て環境の充実を図り、子育て世代、子育て予備軍の転出抑制、転入促進を目指す。
- 出生率の向上については、全国的な問題であり、必ずしも市単独で効果的な施策が展開できるものではないので、国の対策と歩調を合わせて実施するものとする。

施策の骨子

施策1 子育てしやすい環境づくりの総合的支援「子どもと住みたい龍ヶ崎」の実現

- 主な事業：・さんさん館 子育て支援拠点機能強化
- ・放課後子ども支援（学童保育、学習支援等）
 - ・駅前こども送迎ステーションの設置
 - ・子育て・しごと両立支援（ワーク・ライフ・バランスの実現）
 - ・小児救急医療等などの医療体制の充実

施策2 出会い・結婚・妊娠・子育ての各ステージに対応した切れ目のない支援

- 主な事業：・婚活力向上、出会いのサポート
- ・不妊治療助成
 - ・子育てコンシェルジュ、(仮)子育て包括支援センターなど「龍ヶ崎市版ネウボラ」の創設

施策3 子育て世代への経済的な支援

- 主な事業：・若者・子育て世代住宅取得補助
- ・医療費助成（マルフク）拡充
 - ・第3子応援事業

2 龍ヶ崎市への新しい人の流れをつくる

⇒ **基本目標：住んでみたいと感じるまちづくり**

龍ヶ崎市の特性・住民の意向等

■龍ヶ崎市の特性

- ・龍ヶ崎市は1990年代の急激な人口増加の時期を経て、今後は人口減少に転じることが予想されている。
- ・全国の市区町村と比較すると、人口減少の度合いは小さく、自然増減をみると、従来は、わずかではあるが出生数が死亡数を上まわっていたが、最近では死亡数が出生数を上まわるようになってきた。
- ・社会増減をみると、従来は大きく転入超過であったが徐々に減少し、最近では転出超過に転じている。社会増減の年齢別の傾向は、住宅購入層の中心である30代、40代及びその子供の年代である0～14歳、大学入学期にあたる10代後半が転入超過である。一方、就職、結婚期の20代の転出超過が顕著であり、50代以降は微増となっている。
- ・地域別の傾向は、東京都、千葉県へは大きく転出超過である。一方、県内では、他の常磐線主要駅やTX沿線の都市には転出超過であるが、県南東部の市町村などからの転入超過により、県内の移動は転入超過である。
- ・出生率は、全国と茨城県はほぼ同等な値（2012年は1.41）で推移しているが、龍ヶ崎市はやや低めの値（2012年は1.21）で推移している。
- ・地区別人口をみると、ニュータウンの龍ヶ岡地区や北竜台地区では人口減少の度合いはわずかであるが、それ以外の地区は大きく人口減少が進んでいくことが予想され、旧市街地などは高齢化も高い。
- ・ニュータウンの分譲は峠を越え、新築件数は少なくなっている。
- ・都心から45kmの通勤圏にあり、水や緑の自然環境が豊かである。

■第1回まち・ひと・しごと創生有識者会議より

- ・国の施策に対して、本市として何をやるのか。
- ・魅力的な都市計画が人を呼び込む。
- ・JR佐貫駅周辺は、近隣のJR駅と比較しても魅力があり開発の余地がある。
- ・既存の市街化区域を如何にして生かしていくかが重要。
- ・区画整理事業はうまくいかない。
- ・特区を考えたい。
- ・雇用拡大において、どの辺が狙い目か整理するべき。

■住民要望(アンケートより)

- ・ネットワークインフラの強化。
- ・市の魅力アップによる移住の促進。

施策展開のポイント

- 移住したくなる、定住したくなるまちづくりを推進する。
- 充実した子育て環境づくりによる若者の移住・定住を促進する。
- 教育も居住地を選択する重要な要素であり、龍ヶ崎市ならではの教育プログラムが必要と考えられる。
- 市の玄関口である佐貫駅周辺の戦略的な整備計画中である。

事業展開のポイント

- 都心への通勤圏内であることの優位性を活かした移住・定住を促進する。
- 佐貫駅へのアクセス向上など市内交通網の拡充による「通えるまちづくり」を推進する。
- 大学との連携などによる、特色ある教育環境、生涯学習環境を構築する。

施策の骨子

施策1 住みよいまちづくりによる移住・定住化の促進

- 主な事業： ・既存ストック（空家等）を活用した住み替え・定住を促進する仕組みづくり
 ・近居・世帯同居支援などによる子育て世代等の定住促進
 ・新たな商業拠点形成の検討

施策2 通えるまちづくりによる移住・定住化の促進

- 主な事業： ・市内交通網（バスネットワークなど）の拡充
 ・佐貫駅前ロータリー改修などの交通集中対策による首都圏への時間距離の短縮

施策3 特色ある教育環境の創造

- 主な事業： ・学習支援員制度の拡充（学力の底上げ、トップセミナーなど）
 ・サマースクール、放課後学びのサポートなど多様な学習機会の提供
 ・龍・流連携の拡充（児童、生徒、学生の移動手手段の確保（龍・流バス）など）
 ・小中一貫教育の推進

施策4 大学等と連携した人材育成と生涯学習・生涯スポーツの推進

- 主な事業： ・「スポーツ健康都市」を目指した生涯スポーツの推進
 ・トップアスリート育成
 ・市民大学講座・市民講師の活用
 ・スポーツによる交流人口増加

3 安定した雇用を創出

⇒ 基本目標：地域力を活かしたしごとづくり

龍ヶ崎市の特性・住民の意向等

■龍ヶ崎市の特性

- ・龍ヶ崎市は 1990 年代の急激な人口増加の時期を経て、今後は人口減少に転じることが予想されている。
- ・全国の市区町村と比較すると、人口減少の度合いは小さく、自然増減をみると、従来は、わずかではあるが出生数が死亡数を上まわっていたが、最近では死亡数が出生数を上まわるようになってきた。
- ・社会増減をみると、従来は大きく転入超過であったが徐々に減少し、最近では転出超過に転じている。社会増減の年齢別の傾向は、住宅購入層の中心である 30 代、40 代及びその子供の年代である 0～14 歳、大学入学期にあたる 10 代後半が転入超過である。一方、就職、結婚期の 20 代の転出超過が顕著であり、50 代以降は微増となっている。
- ・地域別の傾向は、東京都、千葉県へは大きく転出超過である。一方、県内では、他の常磐線主要駅や TX 沿線の都市には転出超過であるが、県南東部の市町村などからの転入超過により、県内の移動は転入超過である。
- ・出生率は、全国と茨城県はほぼ同等な値（2012 年は 1.41）で推移しているが、龍ヶ崎市はやや低めの値（2012 年は 1.21）で推移している。
- ・地区別人口をみると、ニュータウンの龍ヶ岡地区や北竜台地区では人口減少の度合いはわずかであるが、それ以外の地区は大きく人口減少が進んでいくことが予想され、旧市街地などは高齢化も高い。
- ・ニュータウンの分譲は峠を越え、新築件数は少なくなっている。
- ・都心から 45km の通勤圏にあり、水や緑の自然環境が豊かである。

■第 1 回まち・ひと・しごと創生有識者会議より

- ・国の施策に対して、本市として何をやるのか。
- ・魅力的な都市計画が人を呼び込む。
- ・JR 佐貫駅周辺は、近隣の JR 駅と比較しても魅力があり開発の余地がある。
- ・既存の市街化区域を如何にして生かしていくかが重要。
- ・区画整理事業はうまくいかない。
- ・特区を考えたい。
- ・雇用拡大において、どの辺が狙い目か整理するべき。

■住民要望(アンケートより)

- ・龍ヶ崎市出身芸能人を使って市を PR。
- ・圏央道整備を活かした企業誘致。
- ・龍ヶ崎ブランドの農産物のアピール。

施策展開のポイント

- 恵まれた自然・歴史との調和を目指しながら、独自の緑住文化を創造・発信し続けるまちづくりを実施中である。
- 重要な地域経営資源である大学との龍流連携による取組みを実施中である。
- 佐貫駅駅名改称など知名度向上の取組みを実施中である。

事業展開のポイント

- 地域産業の維持・強化により U I J ターンを促進する。
- 女性の雇用機会拡大、多様な就業形態を創出する。
- アクティブシニア層の活躍を促進する。
- 牛久沼などの自然や歴史等の地域資源を活かした雇用を創出する。

施策の骨子

施策 1 産業、金融、行政が一体となった総合的支援体制の整備

- 主な事業：・産業支援にかかる窓口の一元化（産業と金融のマッチング）
- ・創業支援、創業後のステップアップ支援
 - ・企業誘致策の充実
 - ・チャレンジジョブ制度などの構築
 - ・市の玄関口である佐貫駅を起点とした賑わいの創出

施策 2 若者、女性、アクティブシニア層を中心とした人材の育成・還流・定着の支援

- 主な事業：・人材確保が課題の中小企業や農業等において、就職希望者と事業者双方への支援
- ・若者のスキルアップ支援（保育士修学資金貸付など資格取得など）
 - ・高齢者の雇用の充実（シルバー人材センターの認知度・機能向上など）
 - ・ビジネス手法による地域貢献事業への参入促進支援

施策 3 知名度アップ、地域ブランド確立等による付加価値の向上

- 主な事業：・牛久沼や道の駅を核とした回遊性のある観光ルート・魅力あるスポットの開発
- ・伊達藩飛び地などの歴史背景・遺産を活用した商品開発や付加価値の向上
 - ・「大学のあるまち」をコンセプトとした地域ブランドの開発（龍ヶ崎市ブランドアクションプランによる）

4時代に合った地域づくりと地域間連携

⇒ **基本目標：地域がつながる、安心・安全なまちづくり**

龍ヶ崎市の特性・住民の意向等

■龍ヶ崎市の特性

- ・龍ヶ崎市は1990年代の急激な人口増加の時期を経て、今後は人口減少に転じることが予想されている。
- ・全国の市区町村と比較すると、人口減少の割合は小さく、自然増減をみると、従来は、わずかではあるが出生数が死亡数を上まわっていたが、最近では死亡数が出生数を上まわるようになってきた。
- ・社会増減をみると、従来は大きく転入超過であったが徐々に減少し、最近では転出超過に転じている。社会増減の年齢別の傾向は、住宅購入層の中心である30代、40代及びその子供の年代である0～14歳、大学入学期にあたる10代後半が転入超過である。一方、就職、結婚期の20代の転出超過が顕著であり、50代以降は微増となっている。
- ・地域別の傾向は、東京都、千葉県へは大きく転出超過である。一方、県内では、他の常磐線主要駅やTX沿線の都市には転出超過であるが、県南東部の市町村などからの転入超過により、県内の移動は転入超過である。
- ・出生率は、全国と茨城県はほぼ同等な値（2012年は1.41）で推移しているが、龍ヶ崎市はやや低めの値（2012年は1.21）で推移している。
- ・地区別人口をみると、ニュータウンの龍ヶ岡地区や北竜台地区では人口減少の割合はわずかであるが、それ以外の地区は大きく人口減少が進んでいくことが予想され、旧市街地などは高齢化も高い。
- ・ニュータウンの分譲は峠を越え、新築件数は少なくなっている。
- ・都心から45kmの通勤圏にあり、水や緑の自然環境が豊かである。

■第1回まち・ひと・しごと創生有識者会議より

- ・国の施策に対して、本市として何をやるのか。
- ・魅力的な都市計画が人を呼び込む。
- ・JR佐貫駅周辺は、近隣のJR駅と比較しても魅力があり開発の余地がある。
- ・既存の市街化区域を如何にして生かしていくかが重要。
- ・区画整理事業はうまくいかない。
- ・特区を考えたい。
- ・雇用拡大において、どの辺が狙い目か整理するべき。

■住民要望(アンケートより)

- ・コミュニティバスの整備による交通弱者対策。
- ・佐貫駅へのアクセス性の向上。
- ・沿道の雑草対策。
- ・佐貫駅周辺の開発。

施策展開のポイント

- 市民活動日本一を目指したまちづくりを実施中である。
- 安心安全が実感できるまちづくりを実施中である。
- 現在の高齢化率は24%程度であるが、現状のまま推移した場合、2060年には40%超となる見込みであり、社会保障関係費の増大が懸念される。

事業展開のポイント

- 地域の自主・自立に配慮した住民自治組織の結成・運営を支援する。
- 自助・共助の向上による地域防災力の強化を図る。
- ストックマネジメントを活用した既存施設の統合等を推進する。
- 高齢者が「健幸」（健康かつ生きがいを持ち安心安全で豊かな生活を営むこと）な長寿社会を目指す。

施策の骨子

施策1 地域コミュニティを核とした地域力の向上

主な事業： ・地域力のアップに向けた中核的な地域コミュニティの推進

施策2 市民主体の地域防災の充実

主な事業： ・地域防災の担い手となる消防団の充実強化
・地域防災の担い手のリーダーの育成

施策3 既存ストックのマネジメント強化

主な事業： ・効果的、効率的な既存ストックのマネジメント方策を策定
・交通ネットワークで4市街地をむすび、公共施設等を含む市全体の最適化を検討

施策4 高齢者の「健幸」力の向上

主な事業： ・介護予防・認知症予防など高齢者の心身両面の健康づくりを推進
・地域での見守り、助け合い、生きがいづくり活動を支援